

## 献呈のことば

前田稔先生は、2018年3月、定年により鹿児島大学をご退職されました。私たちは、前田先生のご退職にあたり、本学に対するこれまでの多大なるご貢献を讃え、また学生ならびに教職員に対するご教導に心から感謝して、ここに法学論集を先生の退職記念号として献呈させていただきます。

前田先生は、東京大学法学部在学中である1975年11月に司法試験（旧試験）に合格され、同大学を卒業後司法修習を経て、1978年4月、検事に任官し、東京地方検察庁検察官としての勤務を開始されました。その後、熊本地方検察庁、甲府地方検察庁、再び東京地方検察庁において勤務され、その間、自治体首長による収賄事件、衆議院議員等による公職選挙法違反事件、法務局登記簿原本の窃盗事件、コンピューターソフトウェアの開発に関与した社員がその関係書類等を会社から持ち出した窃盗事件（いわゆる新潟鉄工事件）など、社会的な影響や法理論上の意義が大きな著名事件を含む数多くの刑事事件の捜査や公判を担当されました。

1985年3月に検事を退官された後、同年4月より鹿児島県弁護士会に弁護士登録され、池田法律事務所に勤務されました。1986年4月には前田法律事務所を設立し、今日にいたるまで弁護士として様々な事件を手がけることによって、法的紛争の解決や公正な裁判の実現にご尽力されました。またこの間、鹿児島県弁護士会副会長（2001年4月から2002年3月まで）をお務めになるほか、日本弁護士連合会拘禁二法対策地方本部委員（1999年6月から2002年5月）、同裁判員制度実施本部委員会委員（2004年7月から2005年9月）、九州弁護士会連合会当番弁護士制度連絡協議会委員（1992年4月から1994年3月まで）、同司法改革問題に関する連絡協議会委員（2002年4月から2005年9月まで）などの会務をご担当になり、刑事司法制度の改革を弁護の現場で具体化する役目を広く担われてきました。

2004年に新しい法曹養成の仕組みである法科大学院制度が創設され、本学も同年4月に大学院司法政策研究科法曹実務専攻（法科大学院）を設置しました。前田先生は、実務と理論の架橋を柱とする法科大学院教育の中核を担う実務教員として、2005年10月、同研究科に教授として着任されました。そして元検事として、また現職の弁護士としてのご経験を踏まえて、法律実務基礎科目である「法曹倫理」「リーガルクリニック」「エクスターンシップ」「模擬裁判（刑事）」などをご担当になり、法曹を目指す学生に対する実務的な教育を担われました。さらに、そればかりでなく、「刑事訴訟法問題演習」「刑事法総合問題演習」などの法律基本科目を刑法・刑事訴訟法を専門とする研究者教員と共同でご担当になり、司法試験や実務で必要とされる法知識の応用力を鍛えることにも尽力されました。このように、前田先生は、実務と理論の架橋をご自身の実践の中で体現するとともに、研究者と実務家の協働による教育を積極的に行うことによって、新たな時代の法学教育を本学において形成されました。法曹としての実績はもちろん、そのお人柄ゆえもあり、法曹を始めとする職業に就いた後もなお前田先生を敬う修了生が、数多く存在しています。

2017年3月、同研究科の廃止とともに、前田先生は、法文学部法経社会学科を主担当

とする教授とられました。同学科の法学コースにおいて「演習」「裁判学」「法職入門」などの科目を担当され、法政策学科の学生に対して法律実務の現状を踏まえた教育を展開し、法科大学院教育の資産を今後の学部教育へと引き継ぐために、多大なご尽力をいただきました。

前田先生のご業績は、実務とその教育のみに止まるものではありません。コンピューター犯罪についての学会報告や、理論刑法学の学術論文の公開を通じて、学界における議論にも貢献されました。本学の法学教育における「理論と実務の架橋」は、このような前田先生の幅広い学識に支えられて形成されたものと言っても過言ではありません。また、学内行政においても、2007年4月から2017年3月までの長きにわたって法務担当の学長補佐を、2017年4月から2018年3月までは総務担当の学長補佐をお務めになり、組織内の法令等遵守に係る事項を中心に本学の適正な運営に大きく貢献されました。ご退職後も引き続き、法務・コンプライアンスセンター特任教授（2018年4月から2019年3月まで）として本学にお力をお貸しいただくことになったのも、前田先生が本学にとって不可欠な存在であったことの証左でありましょう。

私たちが同僚として前田先生から直接にご教導いただく機会は、この記念号の献呈が最後となります。寂しさは禁じませんが、これからも前田先生がご健康でご活躍されますことをお祈りするとともに、引き続きこころ鹿兒島の地で法を学び語る同志としてお導き下さいますことを心から願い、献呈のことばとさせていただきます。

平成31年3月

鹿兒島大学法文学部法経社会学科法学コース長 中 島 宏